

インターライ方式の最新情報

CAP一覧		検討表グループ	
CAP	トリガー	検討表グループ	対象
1.身体活動の推進	○		
2.IADL	○		
4.住環境の改善	○		
5.施設入所リスク	○		
7.認知低下	悪化予防		
10.実行	高リスク		
14.インフォーマル支援	○		
15.生活関係	○		
20.低栄養	中リスク		
21.脱水	高リスク		
23.便秘・排便障害	診療あり		

(グループ単位でのCAP検討)

CAP検討グループ		ガイドライン	
名称	認知低下、実行の高リスクと栄養摂取問題	トリガーとその他の長所	ケアの方向を設定する
[CAP2]		1. 認知低下、実行の高リスク うつ評価尺度 (BRS) 3点 (3点以上の場合はうつに関する問題の可能性あり) 認知機能尺度 (CPS) 2 (軽度の障害がある)	1. 精神病 なげ、必 2. 要子さ んの健康 3. 支援 パー、医
G1aB = 4		ADL 1 (準備の援助のみ) 家事の用意、洗濯、買い物、外出能力が低下している。認知機能低下によるIADLの低下が考えられる。うつの可能性もあるが、長太郎さんは専門医の受診歴はない。高齡だが、現在のIADLレベルを可能な限り長く維持しIADLの低下予防のために2段階でアプローチする必要がある。	
G1aB = 4		2. 低栄養 (中リスク) BMI=20.5 (19-21) BRS=3、食事の用意のIADLが低下している	
G5a = 0		生活全般の解決すべき課題 (最大127文字)	長期目標 (最大127文字)
G5b = 1		1. 現在の暮らしを続けたい (長太郎さん)	現在の暮らしを続ける
G6 = 2		2. 現在の暮らしを続けられるように支援を受けたい (要子さん)	
ADLH = 1		短期目標 (最大127文字)	ケア内容 (最大127文字)
CPS = 2		1. 支援体制の確立 2. 要子さんの介護負担の軽減	1. 要子さん める (必要 な

(CAP検討画面)

サービス計画書			
利用者	担当		
利用者: 漢語事例 (居宅) 野上良太郎 様			
利用情報			
計画書作成日(更新日)(年)	2013/03/12		
計画書作成日	阿部 五十嵐		
計画書作成場所	インターネット		
計画書作成区分	更新済		
計画書の更新履歴			
サービス計画書 (2)			
生活全般の解決すべき課題(最大127文字)	長期目標 (最大127文字)	短期目標 (最大127文字)	ケア内容 (最大127文字)
1. 現在の暮らしを続けたい (長太郎さん) 2. 現在の暮らしを続けられるように支援を受けたい (要子さん)	現在の暮らしを続ける 要子さんの介護負担の軽減		1. 支援体制の確立 2. 要子さんの介護負担の軽減

(ケアプラン2表への出力)

NEWS: インターライ方式のクラウドサービスが進化しました

新インターライ方式の公認システムとして、ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム (通称: ASPIC: アスピック) により各ベンダーに提供されている「インターライ方式ケアアセスメントクラウドサービス」が、バージョンアップにより、その機能を格段に向上させました。

1例として、複数のCAP(キャップ)を選んでグループ単位でCAP検討が可能になり、そのまま「介護サービス計画書2表」への反映がスムーズに行えるようになりました。出力帳票も、介護サービス計画書1・2表に加えて、3表の空表も印刷できます。また、各社の給付管理ソフトにデータを連携させる機能も強化されています。

すでに、旧MDSシリーズのアセスメントマニュアルは絶版となり、新任ケアマネジャーへの研修もインターライ方式で始まっています。MDS方式ユーザーは、ぜひこの機会にインターライへの移行をお願いします。

なお、現在ご利用のソフトがインターライ方式に対応しない場合や単独でアセスメント機能を利用したい法人は、以下のASPICまでお問い合わせください。

インターライ クラウドサービス <http://www.aspicjapan.org/interrai/>
 特定非営利活動法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム (アスピック)
 問合せメール: interRAI@aspicjapan.org Tel: 03-6662-6591

WEBによる自己学習ツールも公開予定です!!

新たにインターライ方式を導入する事業所から、アセスメントツールとしての特徴やクラウドシステムの操作をコンパクトにまとめた教材が欲しいという声が多く寄せられていました。

インターライ日本では、公式ホームページにおいてインターネット配信型の自己学習教材を開発中です。秋頃には、公開予定ですので、どうぞご期待ください。

Newsletter 介護QIコンソーシアム 1

2013.8 (公財)ダイヤ高齢社会研究財団 発行

はじめまして!!

私たちは、インターライ方式 (旧MDS方式) のアセスメントデータから算出する Quality Indicators (略称: QI [キューアイ]) によって介護サービスの質を評価する **介護QI** の研究コンソーシアム (共同体) です。コンソーシアム事務局のダイヤ財団より、介護QIの進捗やインターライ方式の関連情報をレターの形でお届けいたします。

リーダーからのメッセージ

介護QIとは、ケアマネジャーのアセスメントデータを二次活用することで、利用者の改善や悪化の状況を把握し、事業所のサービスの質を評価する取り組みです。このような、アウトカム評価が可能なアセスメント方式は、日本ではインターライ方式 (旧MDS2.1<施設>, MDS-HC2.0<在宅>) に限られています。また、インターライ方式は、適切なケアプラン作成に向けて、高齢者の状態を身体的・心理社会的側面から包括的にアセスメントするためのツールとしてケアマネジャーに最も活用されている方式でもあります。したがって、この方式を採用した事業所では、ケアの質の評価と改善のプロセスをひとつのツールで実施できることが最大の利点といえます。

介護QIの評価事業に参加した法人には、他の事業所と比較した成績だけでなく、優先的にケアプランを見直すべき利用者の情報が示されたレポートをお渡しします。「ADLの悪化」や「社会的な孤立」など当該事業所の成績が悪かった領域を確認した上で、悪化のリスク(確率)が低かったにも関わらずADL悪化等の問題が起きてしまった利用者のケアプランを優先的に見直すことで、質の改善サイクルへとつなげていけるでしょう。

「科学的な根拠(エビデンス)に基づくケアの質の向上」を使命とする国際的ネットワークであるインターライ(interRAI)の日本組織を代表して、介護QIの趣旨に賛同いただける法人の参加をお待ちしています。

◆目次

- ・リーダーからのメッセージ
- ・ようこそ: 新しい仲間です
- ・検討中の法人も参加できます
- ・成果公表サイトがOPEN
- ・学会への研究発表
- ・インターライ方式の最新情報

介護QIコンソーシアムの構成



介護QIコンソーシアムに関するお問い合わせ先

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
 新宿区新宿1-34-5直田ビル3階
 03-5919-3172 (担当: 阿部・五十嵐)
 Eメール: qi@dia.or.jp
 公式サイト: <http://dia.or.jp/>

池上直己 (いけがみ なおき)
 NPOインターライ日本 理事長
 慶應義塾大学医学部 教授



介護QIコンソーシアム 通巻: 第1号 発行日: 2013年8月30日
 発行: 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
 TEL: 03(5919)3172 FAX: 03(5919)1641 E-mail: qi@dia.or.jp



サービス付き高齢者向け住宅
アザレアコートこうほんえん(米子市)



老人保護施設
永寿ケアセンター(大阪市)



インターライ方式に関する講義の様子



クラウドサービスを使用した研修

ようこそ：新しい仲間です

2013年度から新たに、鳥取県の社会福祉法人「こうほうえん」様と大阪市の社会福祉法人「永寿福祉会」様が介護QIコンソーシアムに加入して下さいました。

こうほうえん(昭和61設立)は、鳥取県内と東京に特養、老健、高齢者住宅、グループホーム等(約30か所)の施設および居宅サービスを運営する大規模法人です。また、オールジャパンケアコンテストの主催や経産省の「おもてなし経営企業選」50社に社会福祉法人で唯一選定されるなど、サービスの質向上の先駆的存在です。

永寿福祉会(昭和61年設立)は、大阪市内で現在3つの特養と1つの老健を中核に、居宅サービスや地域包括支援センター、デイサービス等を運営しています。MDS方式は以前より導入しており、ケアプラン作成のAssessment方式をあらためてインターライ方式に統一化するタイミングに合わせて、介護QIのコンソーシアムへの参加を決定いただきました。

(2013年度の協定書を締結済みの法人-7月末現在-)

- ・ 医療法鉄蕉会 亀田総合病院(千葉県)
- ・ 株式会社 ラックコーポレーション(東京都)
- ・ 株式会社 日本パムコ(千葉県)
- ・ 株式会社 ビジュアルビジョン(埼玉県)

(記入用)アセスメント表を提供中です

介護QIコンソーシアムの参加法人には、インターライ方式のアセスメント表を無料でお配りしています。様式は旧MDSとほぼ同一で、文字と記入欄が大きく配置された約18頁の冊子です。種類は、「施設版」「高齢者住宅版」「居宅版」に分かれていますので、必要な種類と部数を事務局までご連絡ください。

インターライ方式を検討中の法人もご相談ください

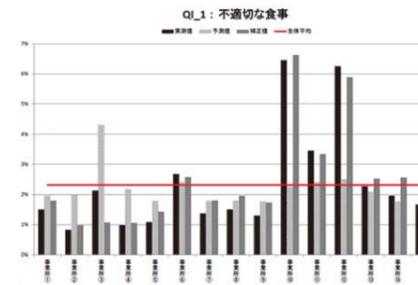
MDS方式からの移行準備中の法人、新たにインターライ方式に挑戦したい法人には、介護QIコンソーシアムへの参加を前提に初期研修等の導入支援も行っています。

本研究事業は公的研究費の助成で運営されており、コンソーシアム参加や評価レポートに関する参加法人の費用負担は基本的にありません。

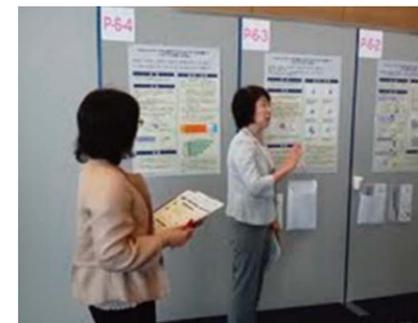
参加条件や導入支援に関する詳細は、以下にお問い合わせください。

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団

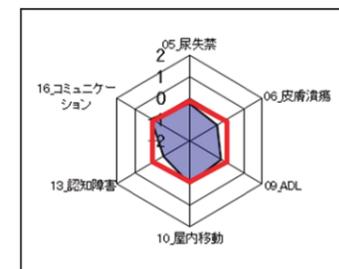
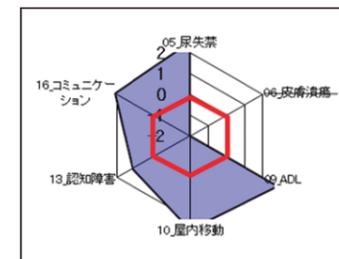
電話03-5919-3172 (担当:阿部・五十嵐) Eメール:qi@dia.or.jp



介護QIサイト(<http://interrai.jp/qi>)



濱田部長による発表の様子



事業所間比較グラフの一例

介護QIの成果公表サイトがOPEN !!

平成24年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業として実施した「ケアプランの質的向上を支援する客観的評価指標の開発に関する調査研究事業」の研究成果をホームページに公開しました。

この研究では、居宅介護支援事業所を中心に5法人15事業所が参加し、利用者約2,000人のMDS-HCアセスメントデータに基づき、「脱水」・「転倒」・「ADLの悪化」・「虐待」などのQI指標を事業所ごとに比較しています。

居宅版のQI22項目の事業所間比較の結果、全体平均値の国際比較等、貴重なデータが公開されています。報告書全文のダウンロードも可能となっていますので、皆さまのアクセスをお待ちしています。

成果公表サイト

<http://interrai.jp/qi/rouken/>

学会への研究発表

2013年6月4～6日に開催された日本ケアマネジメント学会総会(大阪国際会議場)において、「アセスメントデータから算出するケアのアウトカム指標」と題して、計4本の研究発表を行いました。

なかでも、ラックコーポレーションの濱田統括部長が報告した「管理者の立場から見たQIの有用性」に対する参加者の関心は高く、介護事業者としてのメリットやアセスメント定着への苦労など多くの質問をいただきました。

介護QIコンソーシアムでは、研究委員会のサポートにより、参加法人の皆さまによる研究発表を応援しています。実務者による現場発の研究成果の公表にぜひご参加ください。

【介護QIの研究委員会】

- 池上 直己 (慶應義塾大学医学部 教授) ※委員長
- 新津 ふみ子 (日本社会事業大学専門職大学院 客員教授)
- 高野 龍昭 (東洋大学ライフデザイン学部 准教授)
- 五十嵐 歩 (東京大学大学院医学系研究科 助教)
- 川添 チエミ (財団法人仁風会 嵯峨野病院 在宅事業部長)
- 石橋 智昭 (公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長)